

請願・陳情等の受理状況について

平成24年6月14日

ア 「京都市北・南通学圏の高校教育制度」  
改革にかかわる申入れについて

子どもと教育・文化を守る京都府民会議  
代表委員 河口 隆洋

請	願	書	0	件
要	請	書	1	件
	計		1	件

(報告)

「京都市北・南通学圏の高校教育制度」改革にかかわる申入れについて

「子どもと教育・文化を守る京都府民会議」からの「京都市北・南通学圏の高校教育制度」改革にかかわる申入れについて、下記のとおり報告します。

平成24年6月14日

教育長 田原博明

記

- 1 提出日 平成24年5月24日(木)
- 2 提出者 子どもと教育・文化を守る京都府民会議  
代表委員 河口隆洋  
岩橋祐治
- 3 要望事項
  - 1 高校間の格差や序列を拡大させず、どの高校に行っても、整備された教育環境のもとで豊かな高校教育を保障すること。
  - 2 「地域」の公立高校としての役割を重視し、「地域」の公立高校に行きたい子どもが行けることを保障する制度であること。
  - 3 通学圏をこれ以上拡大させず、むしろ縮小をはかること。
  - 4 高校で学ぼうという意志のある子どもを受け入れていく方向で、制度の改善をすすめること。
  - 5 拙速に結論を出すことなく、府民的な議論をていねいに展開すること。

2012年5月24日

京都府教育委員会

教育委員長 大橋 通夫 様  
教育長 田原 博明 様

## 「京都市北・南通学圏の高校教育制度」改革にかかわる要望書

子どもと教育・文化を守る京都府民会議

代表委員 河口 隆洋  
岩橋 祐治

日頃より、京都府・市の子どもと教育のためにご尽力されていることに敬意を表します。

「京都市・乙訓地域公立高等学校教育制度に係る懇談会」が2011年10月に設置され、今までに4回の懇談会で協議がすすめられています。そこでの協議はこの間、当通学圏での「総合選抜」や「類・類型」などを今後どうするかなど、とりわけ入学選抜制度に関する協議がおこなわれてきました。私たちはこの間の協議を傍聴してきましたが、当通学圏での今後の高校教育が「各高校間の格差・序列化をさらに拡大することにならないか」「各高校が『地域』の高校としての役割・位置づけをなくすことにならないか」と危惧しています。

京都府内では「類・類型」制度や「新学科・新課程」の創設をはじめとする、公立高校教育制度のこれまでの改編によって、受検者や保護者からもわかりにくいものとなっていることは事実です。さらに、各高校間では学力等の格差や序列化が拡大しているとともに、受検者が希望しても居住する近隣の『地域』の高校に入学できない事態が少なからずおこっています。

先般、通学圏を拡大するとともに、すべての公立高校を「総合選抜」から「単独選抜」に変更した山城通学圏では、高校間での格差・序列が広がる中で、例えば、宇治市に住む子どもが希望しても近隣の高校には進学できず、高額の交通費と長い時間をかけて木津川市の高校まで通わなくてはならないなど、困難な修学環境をまねく事態もおこっています。

私たちは子どもたち一人一人にとって、高校進学後も豊かな高校教育が保障され、卒業まで修学を続けられることを願っています。私たちの願いをふまえた協議が当懇談会でおこなわれるよう、以下の要望をさせていただきます。真摯に受けとめて対応を求めるものです。

### 記

1. 高校間の格差や序列を拡大させず、どの高校に行っても、整備された教育環境のもとで豊かな高校教育を保障すること。
2. 「地域」の公立高校としての役割を重視し、「地域」の公立高校に行きたい子どもが行けることを保障する制度であること。
3. 通学圏をこれ以上拡大させず、むしろ縮小をはかること。
4. 高校で学ぼうという意志のある子どもを受け入れていく方向で、制度の改善をすすめること。
5. 拙速に結論を出すことなく、府民的な議論をていねいに展開すること。